

オナーズプログラムが外部中間評価で総評「S」 さらなる改善で多くのナノテクリーダー輩出を目指す

2013年2月28日、筑波大学定例記者会見において、つくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム（通称：オナーズプログラム）運営委員長・山部紀久夫教授が外部中間評価で得た「S」評定と今後のプログラムの運営について発表を行いました。日本の大学院教育の問題点をカバーし、ナノテク研究拠点・つくばの地の利を生かした人材育成プログラムについて、また、これからのオナーズプログラムについて話を伺いました。



つくばナノテク拠点産学独
連携人材育成プログラム
運営委員長

山部 紀久夫教授
(筑波大学数理物質系)

オナーズプログラムは、つくば地区の高度な研究設備を利用し、つくば地区に集結しているトップクラス研究者と協働してナノテク関連分野の次世代リーダー育成を目指しています。2010～2014年度文部科学省特別経費でスタートし、3年目を終える現在、累計で25名の学生が本プログラムに参加、合計5名の修了者を送り出すことができました。

現在の日本の（特に国立工学系）大学院教育は欧米と比較すると、

●基礎的なコア科目・資格試験（QE）を提供する大学院がほとんどない

●同一大学・同一研究室の大学院進学が非常に多い

●早い段階で研究室に配属。学生は研究室の帰属意識が強く他分野への興味を失ってしまう

●不十分な基礎学力で大学院に進学し、修士修了で多くの学生が就職する

●経済的支援が貧弱で奨学金は原則貸与

など、特別なリーダーとなり得る博士人材育成に向かない土壌があります。本プログラムでは、学生が

多分野の研究者から多角的なアドバイスを得ることで自分の研究を俯瞰的に捉える力を身に付け、また、海外武者修行やサマーレクチャーでは世界トップレベルの大学院教育を体験し、海外の研究者と交流も生まれます。これらの経験は、将来にわたり沢山のひらめきをもたらす糧となるでしょう。

2012年12月に、他大学教授や企業研究職の方々を委員に迎え、外部中間評価を実施しました。総評は「S」と大変な高評価を得ましたが、また同時に改善策も見えてきました。その結果を受け、2013・14年度のオナーズプログラムでは、下記の改善を実施しより良いナノテクリーダー育成に取り組みます。

①プログラム領域の拡大

・ナノエレクトロニクスからナノサイエンス（物質科学）へ

②プログラムの規模の拡大

・学生数を現在の20人→25～30名に増加
・連携コーディネーター、海外派遣先、夏季集中講義数を増加

③プログラムの質の改善

・優秀な学生確保：領域拡大と選抜方法の見直し
・高度な研究心向上：現行の「NIMS関係研究」を産総研やKEKに拡大
・学生の潜在能力発掘：成果広報の強化

★オナーズプログラムの詳細、中間評価報告など「つくばナノテク拠点産学独人材育成プログラム」のホームページで詳しく読むことができます。 <http://www.tsukuba-honorspg.jp/>

オナーズ プログラム 平成25年度 参加者募集

募集人数 : 10名前後 ※所属大学を問いません。指導教員の承諾が必須条件です。
対象者 : 博士後期課程1年生、博士前期課程2年生（後期課程進学予定者）
分野 : 広義のナノサイエンス（物質科学）に関連する分野（シリコンナノエレクトロニクス、光エレクトロニクス、スピントロニクス、カーボンナノエレクトロニクス、ナノバイオ・有機エレクトロニクス、パワーエレクトロニクス、ナノグリーン、その他）
申込締切 : 2013年4月16日（火）※予定 事務局へ直接提出または郵送のみ受付
説明会 : 2013年4月9日（火）13：30～15：00 総合研究棟B 0112号室
指導教員の先生方のご参加もお待ちしております。